
波に浚われた心

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

波に浚われた心

【Nコード】

N3129M

【作者名】

ロースト

【あらすじ】

波に身を任せることのなんと心地よさ。
考えるkとさえ、止めてしまいそうだ。

波にさらわれた私の心

まだ誰も本当の私のことを知らない
私自身、自分のことを何も知らない
私は空っぽなのだ。

決して、誰も私の心の中へは入ってきていない
誰がこの私の心を変えてくれるだろうか
私はその人を待っている

私は心の海で波を立てて彷徨っている
私自身の真実を見つける船旅が続けているのだ

波は寄せては引いてを繰り返し、私を岸まで運ぶことはない

ひたすらに深い蒼の大海を波に揺られ続ける

でも、そのうちに自分の行くべき道を見失ってしまったのだ
波は私をどこへと誘うのか

抗う術をしない私は身をゆだねる

木船の上、寝転び目を瞑る

狭い空間の中

視界からの情報が絶たれ、感覚は聴覚へと研ぎ澄まされていく
身体感覚は抜けていく

静かな波音に眠りを誘われる

その音色はものがたりのようで、子守唄のようで

何かに祈りの言葉を贈る

それは海でも、心でも、自分でもあり、透明な風

私を見つけてくれる人へかもしれない

意識は波にさらわれるようにずっと消えていく
かすかに暖かな想いを胸に抱いて

まだ誰も本当の私のことを知らない

誰がこの私の心を変えてくれるだろうか

誰も私の心の中へ入ってこないかもしれない

でも、それは私が目を瞑りすべてを拒んでいたからかもしれない

ゆっくりではあるけれど、私の心は動き出していた

映りゆく景色、あまりにもゆっくり過ぎてわからなかっただけ
本当は新しい自分がそこにいた

私に乗せた船は未だ止まることを知らない

それでも確かにどこかへと引き寄せられていつている
ほら、ちゃんと目を開いて

聴覚だけでなく、視覚だけでなく、身体全体で感じて

海はもう果てにきているのかもしれない

この心の海に私は迷っていない

はつきりとはしてなくとも

もう、心に目標が、行くべきところが浮かび上がってきているでし
よう

すぐにわかるようになる

まだ誰も本当の私のことを知らない

私自身、自分のことを何も知らない

私は本当の私を知りたい

今はまだ、誰も私の心の中へは入ってきていない
誰がこの私の心を変えてくれるだろうか
私はその人を待っている

旅はまだ続いている

この穏やかな波も私と一緒に
波は寄せては引いてを繰り返し、船は進んでいく

私は本当の自分を知るため船に乗っている
この船はどこに向かっているのだろうか
それはもう、私の心に在るはず
新しい自分を見つけるために

波は寄せては引いてを繰り返し、
意識は波にさらわれるようにずっと消えていく
かすかに暖かな想いを胸に抱いて

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3129m/>

波に浚われた心

2010年10月16日11時20分発行